



市内に誕生した和風文化施設の見学に訪れる市民



京都の職人の指導を受ける地元の職人



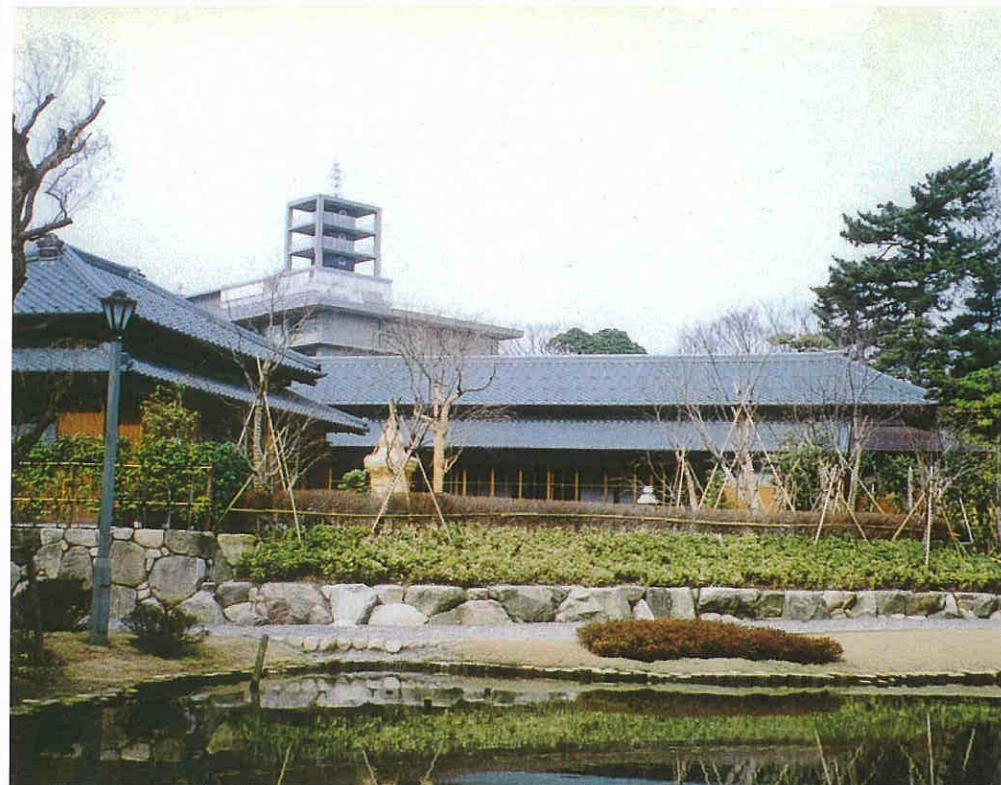
館内では呈茶も行われ、伝統文化の一端にふれることもできる

DATA・BOARD ⑭

- ①新潟県新潟市一番堀通町白山公園内
- ②延床面積：約494㎡
- ③JR信越本線新潟駅からバスで市役所前下車・徒歩3分
- ④白山神社、白山公園、新津記念館、新潟県政記念館
- ⑤呈茶



14 白山公園「燕喜館」



新潟市内では、震災や大火などの災害や近年の経済発展に伴い、市内中心部における歴史的建造物が次々に姿を消していく中、明治後期の建築物と推測される「燕喜館」は貴重な存在となっていた。この建物は、商家であった斎藤家の邸宅の一部であったが、駐車場ビルの建設に伴い取り壊されることになったため、市が寄贈を受け、市民の文化活動の拠点となるように整備を加え、白山公園内に移築・再建築したものである。

白山公園は、日本最初の都市公園のひとつに指定された公園で、公園から信濃川までの一画は文化施設やスポーツ施設などの一体的な整備が進められている。

整備にあたっては、燕喜館を広く市民に公開すること、和風伝統文化活動に活用することを目的として、茶道や華道などの文化活動にあたる市民の代表と京都伝統建築技術協会との意見交換を行いながら施工を進めた。

移築に際しては、旧家の風情を損なうことがないように留意しながら、傷みの激しかった屋根瓦を近郊の安田町で製造した安田瓦に交換したり、再建築できない部分の建具や照明器具を新設部分に再利用した。また、茶室の建築工事では、京都の大手や左官の協力を得て行い、地元の職人との交流も図られた。

整備後は、茶会の会場不足も解消され、文化遺産への市民の理解も深められ、和風文化活動の振興にも寄与している。